
LactPren (らくとぷれん)

～農業体験・環境教育から学ぶ
地域連携と食教育～

第1章 プロジェクトの概要など

1. プロジェクトの名称

LactPren とは、「地域の活性化と環境保全」のフランス語訳である、Lactivation et la Protection de l'environnement の下線部分(Lact+Pr+en) を用いた造語である。

2. 本プロジェクトの目的

①京都市伏見区深草地域および京都市北区小野郷地域を中心に活動し、学生を主体として、地域の人々や諸団体と連携・協力しながら、環境整備活動や農業体験を通して地域貢献を目指す。

【実践的活動を通じた地域連携】

②食育のイベントなどを通じて、参加者に食の大切さや安全性について意識するとともに、学生が将来教師になった際の正しい食教育の知識を養う。

【学校における食教育の考察】

近年の学校教育では、学校・家庭・地域の連携が重要視されているが、地域との関わりの希薄さという点において課題は多い。私たちは、将来教師として地域と連携することを想定しながら、地域において農業体験や環境整備活動等の実践的な活動に取り組み、様々な立場の人々との交流を通して、学校と地域との連携について考察する。

次に、食育とは、「国民一人一人が、生涯を通じた健全な食生活の実現、食文化の継承、健康の確保等が図れるよう、自らの食について考える習慣、食に関する様々な知識、食を選択する判断力を楽しく身に付けるための学習等の取組み」を指す。

学校教育で食育が重要視される背景には、食生活の乱れや肥満・痩身傾向、孤食など、子どもたちの食をめぐる問題がある。食育基本法（平成 17 年 6 月制定）前文で食育は、「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの」とされ、「様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる」ことが求められている。

「食」は私たちの生活の根源であり、喜びでもある。その中でも私たちと農作物は、「育てる」→「収穫する」→「調理する」→「食べる」というサイクルで深く関わっている。しかし、日常生活においては、「調理する」「食べる」の 2 か所しか関与しない、あるいは意識できていないことが多い。食育活動を通じて、調理して食べることに加え、育てることの苦勞や、収穫することの喜びを子供たちに実感してもらうとともに、学校教育での食育のあり方について考察することも本プロジェクトの目的である。

また、食育の企画・実践の過程で、地域と連携することも意識したい。私たちは、将来、教員として教壇に立った際に、正しい食育ができるよう、地域と連携しながら、農作業の体験や食育イベントの企画開催等を通し、「食」に対する正しい知識と生産者の苦勞等を学ぶ。

小野郷地域においては、米や野菜を育て収穫するという生産の過程を学ぶと同時に、地域の方々と協力して作り育てることの喜びを体感する。深草地域においては、大岩山の整備活動を通して地域連携について考察するとともに、食育イベントの企画開催を通して参加者に「食」や育てることの大切さを伝え、食育の意義や方法についても考察していきたいと考えている。

3. 代表者および構成員

・代表者

弘田 真基 社会領域専攻 3 回生

・構成員

竹田 美月 社会領域専攻 4 回生

世古 千春 家庭領域専攻 4 回生

世古 春香	社会領域専攻	4 回生
奥田 大揮	社会領域専攻	3 回生
坂口 諒	社会領域専攻	3 回生
阪田 裕二郎	社会領域専攻	3 回生
平野 拓朗	社会領域専攻	3 回生
松田 良子	社会領域専攻	3 回生
山中 翔太	社会領域専攻	3 回生
松岡 翼	社会領域専攻	2 回生
天羽 敦子	社会領域専攻	1 回生
片淵 裕紀	社会領域専攻	1 回生
岸田 茉莉	国語領域専攻	1 回生
山崎 美紅	社会領域専攻	1 回生

4. 助言教員

武田 一郎先生 (社会科学科)

石川 誠先生 (社会科学科)

A・オーバーマイヤー先生 (英文学科)

5. その他

・協力団体

NPO 法人 京都北山悠悠自然塾

NPO 法人 深草ふれあい隊 竹と緑

五感でごはん実行委員会

京都市伏見区深草支所

ふかくさ自然環境再生ネットワーク推進委員会

・協力者

和倉 彰久 (本学大学院)

第2章 内容や実施経過など

1. 活動地域についての概要

(1) 京都市北区小野郷

小野郷地域までは JR 京都駅からバスで 1 時間程度の距離でありながら、山間部を流れる清流や美しく整備された北山杉や季節によって様々な様子を見せる森林などが生い茂る森林、澄んだ空気という魅力的な環境をもつ地域である。

しかし、現在、高齢化や人口減少、それに伴う山野の荒廃や休耕地の増加などが深刻な問題となっている。そのため、耕地・放棄地(休耕地)の活用や、地域活性化を目指し、行政(京

都市)や地域住民、NPO 等が各種の取り組みを行っている。

平成 22 年度より LactPren が「e-Project @kyokyo」に応募し、農業体験を通して地域の活性化や地域の人々との関わりについて考える活動を行ってきた。今年度も小野郷地域で農業体験や林業体験を通じた地域連携に目を向けた活動を行った。

(2) 京都市伏見区深草

本学の東に、大岩山(標高 182m)が伏見区と山科区にまたがり位置する。以前から産業廃棄物をはじめとする不法投棄が問題となっていたが、平成 20 年度に行政(伏見区役所深草支所)、NPO、大学生、地域住民等が協力し、廃棄物の回収を行った。

平成 21 年には、深草の大岩山周辺地域を二度とごみ山に戻さないとの決意から、地域住民や大学等教育機関、NPO 法人、農協、関係機関等で「ふかくさ自然環境再生ネットワーク推進委員会」が設立され、深草トレイルの開設や大岩山展望所の設置、継続した一斉清掃や竹林整備等の取り組みを行っており、本プロジェクト所属の学生数名も、学生委員として参加している。

2. 活動内容および実施経過

(1) 食育イベント「第 8 回 五感でごはん」

日時：平成 28 年 5 月 1 日

参加場所：市民農園風緑(京都市伏見区深草)

本プロジェクトでは、平成 25 年度より伏見区役所深草支所、NPO 法人「深草ふれあい隊 竹と緑」、京都市立芸術大学、龍谷大学、聖母女学院短期大学と連携しながら、市民農園風緑にて、食育イベント「五感でごはん」を実施している。平成 27 年度に区民活動支援事業(2 年間)に登録され、「五感でごはん実行委員会」を設立した。

今回は、25 名(保護者 12 名、児童 13 名)の参加があり、竹林を 5 分ほど歩き、タケノコ掘りを行った。また、ミニランチ(タケノコの

炒め物と焼きおにぎり)を食べながら、深草での取り組みについてPRするとともに、参加者との交流を図った。

(2) 田植え



日時:平成 28 年 5

月 3 日

参加場所:京都市北区大森

NPO の方々にレクチャーを受け、参加者と学生がペアになり、稲苗の手植えを行った。昼食後には、清流で生き物探しや水遊び等を行った。



(3) サツマイモの苗植

え

日時:平成 28 年 5 月 14 日

参加場所:京都市北区大森

藤陵祭で販売するサツマイモの苗植えを行った。昨年度から、鳴門金時と安納芋の 2 種類を栽培している。

堆肥を撒いた後に、耕運機で耕して畝を造り、苗を植え、水を撒いた。



(4) 大岩山の竹林整備

日時:平成 28 年 5 月 25 日&6 月 4 日

参加場所:大岩山(京都市伏見区)

深草支所と連携し、荒廃竹林の整備活動を行った。参道に光が差し込み、参拝者や利用者がより心地良く過ごすことができるように、竹林の伐採を行った。



(5) 祇園祭 役行者山の組み立て・解体

日時:平成 28 年 7 月 20 日、23 日、24 日

参加場所:京都市中京区役行者町

NPO 法人「京都北山悠悠自然塾」に、役行者山の木工棟梁をされている方がおられた縁で、今年度から初めて参加した。

町内役員や NPO、大工の方々と協力しながら、山の組み立てと解体等を行った。



(6) 深草トレイル 英語表記添付作業

日時:平成 28 年 8 月 18 日

参加場所:深草トレイル(京都市伏見区)

深草支所の方と巡回しながら、深草トレイルの道標に英語表記を添付して行った。

近年、伏見稲荷大社を訪れる外国人観光客が大幅に増加しており、参道で迷う観光客も多い。英語表記の添付により、この問題を解消するとともに、深草にもより多くの来訪が見込まれる。



(7) 夏季合宿研修

日時：平成 28 年 8 月 27 日、28 日

参加場所：京都市北区小野郷・大森

NPO 協力の下、藤陵祭で販売する野菜（大根・白菜・人参）を植えるとともに、地域交流を深めた。昨年度と同様に、現在休校となっている京都市立小野郷小中学校に宿泊した。

休耕地に堆肥を撒き、トラクターで耕し、畝を作り、種を播き、マルチシートを被せる一連の作業を NPO の方々に指導していただきながら、学生が主体的に行った。昨年度は耕地の養分が多く、野菜が大きくなり過ぎた反省があったため、今年度は肥料を調節するよう改善した。

2 日目は、雨天のため、屋内で白菜の種付けを行った。



(9) 朝市

日時：平成 28 年 10 月 23 日～11 月 27 日

(毎週日曜日)

参加場所：京都市北区小野郷

10 月下旬から 11 月下旬にかけて、毎週日曜日に NPO 主催の朝市に参加した。今年は、猛暑の影響で、例年よりも野菜が少なかった。

しかし、小野郷地域の方々だけでなく、通りがかりの方々にも好評をいただき、毎回ほとんどの野菜を売り切ることができた。



(8) 芋掘り

日時：平成 28 年 10 月 15 日

参加場所：京都市北区大森

5 月に植えたサツマイモを収穫した。収穫したサツマイモは天日に晒し、11 月に藤陵祭で販売する。天日に晒すことで甘みが増すそうだ。

(10) 野菜の収穫

日時：平成 28 年 11 月 9 日

参加場所：京都市北区大森

夏季研修合宿で種を播いた野菜を収穫した。今年度は猛暑と長雨の影響で白菜の収穫が間に合わず、朝市で販売することとなった。



(11) 藤陵祭

日時：平成 28 年 11 月 11～13 日

参加場所：本学

小野郷で栽培した野菜とそれらを使った大根煮、スイートポテトを販売するとともに、小野郷や深草での活動の PR を行った。



第3章 結果や成果など

1. 京都市北区小野郷での活動について

昨年度に引き続き、田植え、サツマイモの苗植え、夏季合宿研修、野菜の収穫、間伐、と農林業の体験を中心に活動を行った。耕運機やトラクター、チェーンソー等を使用する機会は、普段の生活ではなかなか得られないものである。社会科では、産業についての学習で、農業や林業を扱う。教科書の知識を教えるだけでなく、教師自身の体験に基づいた「生きた知識」を授業に取り入れることが児童生徒の豊かな学びにつながるのではないだろうか。小野郷で農林業を経験しながら、地域の人々と連携し、地域の在り方を考える時間は、メンバーにとってかけがいのない、大変価値のあるものであった。

朝市や藤陵祭では、毎年の開催を楽しみに来て下さる方々が年々増え、NPO と我々の活動が少しずつ知られていることを実感した。

また、今年度は、NPO の役員の方との御縁があり、祇園祭の手伝いに初めて参加させていただいた。役行者山の組み立て・解体や巡行の準備・片付けなどを通して、地域連携の輪が広がるとともに、京都の伝統や文化に対する我々の愛着もより一層深いものとなった。

(12) 北山杉の間伐体験

日時：平成 28 年 12 月 4 日

参加場所：京都市北区大森

間伐体験は、7 月に実施予定であったが、悪天候のため 12 月に延期となった。昨年度は、台杉をチェーンソーで伐採したが、今年度は、15m 以上の北山杉を伐採した。

夏季であれば、杉の皮むきを行うが、冬季での間伐は、杉を乾かすことができず、皮むきは実施しなかった。



2. 京都市伏見区深草での活動について

大岩山では、深草支所と連携しながら、荒廃した竹林の伐採を行い、参道の環境整備を行った。整備前に比べ、参道に日光が多く差し込み、参拝者や観光客が心地良く利用できるようになったのではないかと思います。また、今年度の新しい試みとして、深草トレイルの道標に英語表記の添付を行った。近年の観光客の増加に伴い、伏見稲荷大社から足を延ばし、深草トレイルを利用される方

も増加している。環境の整備や英語表記の添付等の取り組みは、大岩山の地域資源としての価値を高めるとともに、我々にとっても、地域の望ましい在り方を考察するよい機会となった。

食育では、龍谷大学政策学部清水ゼミと協働しながら通算8回目となるイベント(五感でごはん)を企画・運営した。本イベントは、昨年度から区民活動支援事業(2年間)に登録されており、地元NPOだけでなく、行政と大学を加えた三者で協働することにより、食育の実践だけでなく、深草での取り組みを地域の人々に広く知っていただくきっかけとなった。

第4章 まとめと反省、今後の展望など

朝市や藤陵祭を通して、地域の方々と関わる中で、本研究の取り組みに対する認知度が向上していることを実感することができた。しかし、今年度は、天候に左右され、間伐や稲刈り、京都市立高尾小学校での餅つき等、当初の予定通りに実施ができないことも多く、改めて農業や林業の厳しさを、身をもって感じる事となった。

LactPrenは、e-Projectとして活動を開始して間もなく7年が経過する。NPOや行政の方々のご支援とご協力の下、活動の幅を少しずつ広げること成功してきた。今年度は、小野郷での農林業体験を重点的に行うことができ、大岩山での環境整備活動もこれまでの積み重ねから着実に成果を挙げている。

しかし、食育に関しては、イベントの企画・開催に留まっており、より学校教育に適応するようなかたちでの実践を模索すべきではないかという反省と次年度以降の課題が見つかった。年間の活動を通して、これまで通り実践し続けるべきことだけでなく、新しく取り組まなければならないこと、改善すべきことを考えながら活動しなければならない。

今後は、食育イベントの企画・運営を通して得た知識を学校現場に即して活用したい。その為にも、公立学校等との連携を図り、新しくより実践的な活動を通して、学校教育における食育につい

て研究したい。また、小野郷をより多くの人々に知っていただくためには何をすべきか、何ができるのかを改めて模索するとともに、大岩山での環境整備活動も継続的に取り組みたい。

<参考・引用文献>

前年度までの活動については、本学HPを参照。

LactPren 公式 Twitter @LactPren

NPO 法人 京都北山悠悠自然塾 HP

<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/satomi-f/index.html>

NPO 法人 深草ふれあい隊 竹と緑 FB

<https://www.facebook.com/taketomidori/>

市民農園風緑

<http://www.kyoto-kazamidori.com/index.php>

食育基本法

北山三村 小野郷

<http://kitayama3.jp/onogo/>

京都市北区基本計画「自然と調和した住み良い北山三学区の創造」

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kita/page/0000093718.html>

京都市伏見区深草支所 HP

<http://www.city.kyoto.lg.jp/fushimi/category/150-2-2-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

(参照：平成29年1月18日)

